

原子力安全検証委員からいただいた ご意見を踏まえた取組状況について

平成29年11月24日

関西電力株式会社

▶ 第14回原子力安全検証委員会（平成29年6月5日）までに頂いたご意見のうち、「意見A」に整理している以下の2項目について、その取組状況についてお諮りする。

<参考>

意見A：ご意見を踏まえ新たに**取組方針を策定**するとともに、**取組状況を検証委員会でフォロー**していくもの

意見B：ご意見の趣旨について、改めて委員に確認したうえで、意見Aか意見Cを判断するもの

意見C：ご意見の趣旨に沿って既に取り組んでいるが、**社内で共有し、当社活動を進めるうえで留意**するもの

ご意見の概要		検討段階※	実施段階
ロードマップ関係	①	ロードマップの進捗状況の評価	○
	②	リスクコミュニケーションの充実	○



2



3

※「検討段階」のご意見については、次回以降の検証委員会において、引き続きフォローしていく。

ご意見

取組方針と取組状況

② ロードマップの進捗状況の評価

ロードマップの報告書において、達成状況をどのように評価するかという評価方法と、評価結果を記載していくことが必要である。
第9回委員会 (H27.11.30)

ロードマップの取組みを端的にハード対策、ソフト対策に分けるのではなく、安全性向上への取組みの本質は何なのかをもう一步踏み込んで考えてほしい。具体的には本質（狙い、目的）に対し、どのような施策を行い、効果はどうであったか等、資料のまとめ方を工夫してほしい。
第11回委員会(H.28.11.14)

ロードマップは、ありたい姿の設定等、分かりやすくなったと思うが、ロードマップはゴールに到達するためのプロセスを世間に示すためのものなので、ありたい姿に向かって、毎年取り組んだ内容を評価し、改善していくというPDCAが適切に回っていて、継続的に取り組んでいる様子が分かるように工夫していただきたい。

今回設定した「ありたい姿」は非常にクオリティが高いと思うが、それに到達するためにはもう一工夫があると思う。そのためには、2017年度から19年度に展開された計画には、「ありたい姿」に向かって取り組んでいく中で、途中どこをどう通っていくのか、そしてPDCAを回してどう改善していくのか示すことが重要である。
第11回委員会(H.28.11.14)

【取組方針】

今回報告したロードマップ報告書において、平成29年度以降の計画として、ありたい姿に向けた主な取組みを公表しました。

今後の報告書では、主な取組みにおける計画に対する個別の活動状況やその評価をお示しすることで、当社がPDCAを回しながら、安全性向上にたゆまず取り組んでいる様をお知らせしたいと考えています。

当社の取組み状況をできるだけ分かりやすくお示するため、適切な評価指標について検討を進めてまいります。

【取組状況】

本日、ご確認いただきたい箇所

当社は、平成29年5月に公表したロードマップ報告書において、平成29年度以降の計画として、5つのありたい姿の実現に向けた主な取組みおよび3か年の目標を公表いたしました。その上で、3か年目標を踏まえた単年度計画を策定し取組みを進めております。

⇒ 前回(6/5) 検証委員会においてご確認済み

今回の報告書では、平成29年度上半期の主な取組みについて、指標も活用しつつ、着実に取組みを進めた結果を記載しており、PDCAを回しながら、安全性向上に取り組んでいる様をよりわかりやすくお示ししております。（平成29年11月7日公表）

今後も、当社の取組状況をできるだけ分かりやすくお示しできるよう、工夫してまいります。

【リスクコミュニケーション】

ご意見	取組方針と取組状況
<p>③ リスクコミュニケーションの充実</p> <p>難しい面があると思うが、「40年以降の運転」のリーフレットを作成する時、福島第一原発事故以前のように「大丈夫です」、「安全です」と電力会社の論理を一方的に発するのでなく、残余リスクはあるという視点も入れて作成されたい。</p> <p>第11回検証委員会(H.28.11.14)</p>	<p>【取組方針】 ご指摘の通り、専門家や一般の皆さまのご意見等を踏まえながら残余リスクの視点を反映した広報媒体の発行を検討してまいります。</p> <p>【取組状況】 本日、ご確認いただきたい箇所 原子力発電の残余のリスクについては、今後の広報媒体発行時に、その内容に応じて、社達「原子力発電の安全性向上への決意」の表現をベースに、「原子力発電に関するリスクが少しでもゼロに近づくように取組みをしている」ことなどを、継続的に発信してまいります。 ⇒ 前回（6/5）検証委員会においてご確認済み</p> <p><参考：H29.10.7 福井県内折込新聞広告（福井新聞、県民福井）> （関係箇所抜粋） 安全に、これで十分という到達点はありません。 当社、協力会社、プラントメーカーなど、関係する全ての一人ひとりが、緊張感を持って、細心の注意で運転・保全に万全を期し、更なる安全性向上に取り組んでまいります。</p>